目　　次

総合科学部の１年間 ……編集部…… 1

春四月、新入生諸君を迎えて ……ヨーロッパ研究教授　戸田　吉信…… 3

『飛翔』とは何なのか ―『飛翔』紹介― ……編集部…… 4

特集

飛翔するものたちのメッセージ　－卒業生アンケートから－ …… 5

＜その１＞私の卒論・一言紹介 …… 5

＜その２＞私の総合科学部観 …… 7

＜その３＞講義について …… 9

＜その４＞大学生活を振り返って …… 12

＜その５＞私の学生観・職業観 …… 13

＜その６＞後輩にすすめたい講義 …… 16

卒論題目一覧

Ⅰ特別研究論文 …… 17

Ⅱ修士論文 …… 20

特集

ようこそ57生　期待しています　フレッシュマン …… 21

自由投稿　ハイキングはいかが　－宮島弥山の巻－ ……55生　雲井　　司…… 23

移転を考える …… 24

就職委員会だより ……就職委員会委員長　三寺　光雄…… 24

編集後記 …… 26

総合科学部の１年間

編集部

〔４月〕

◦**入学式**（８日）－憧れて入った人も、やむなく入った人も、とにかく正式に広大生と認められる日。さあ、はばたけ、freshman!

４月中、広大メインストリート森戸道路は、どのクラブもあの手この手の勧誘合戦。キミはもうクラブを決めた？それとも優柔不断にカワイ子ちゃんや、カッコイー先輩のいるクラブへ入っちゃう？

◦**オリエーテンションキャンプ**（24日～25日）－４月最大の行事はなんといってもオリキャン。宮島の自然の中で２日間、メチャンコ遊んじゃおう。きっとすばらしい友達ができるでしょう。あ、そう、そう、この機会にフェローの先輩とも仲よくなっておこう。大学のこと、人生のこと、いろいろ教えてもらえるよ。

◦**新歓コンパ**－飲んで、肩を組み、みんなで歌えば総科は一つ。広大・総科の一員であることをしみじみ感じる時。

〔５月〕

◦**西条研修**（15日～16日）－"ほんとに、よくこんな田舎に大学移転すもんじゃのう"そんな声も聞かれる西条へ行って、泊り込みの研修をしようという企画。研修といっても堅苦しいものではないし先生方ともお話しできるよい機会。積極的に参加しよう。

◦**春期ソフトボール大会**－総科の教官・事務官・学生による大会。ソフトで汗を流して、そのあとは、先輩もみんな一諸になって、また舌戦。

〔６月〕

◦**六月祭**－クラブ、学部の有志が森戸道路へ店を出して、"ひともうけしようか"なんて感じ。要するに、遊び好きの広大生のバカ騒ぎ。でも、新入生にとっては、初めて大学での活動に積極的に参加できる時。この機に一旗あげるのもいいかも。

４月第１週には、聴講受付けが始まる。大学へ入ったんだから勉強しなくちゃあはじまらない。とはいっても、どんな要領で時間割を組めばいいのかわからないって？心配御無用。優しい先輩たちがガイダンスを開いて、大学生活の１から10まで教えてあげるから。

〔 7月 〕

あれよ、あれよという間にもう夏休み。

〔 8月 〕

もちろん夏休み。体育会主催のサマーキャンプなど楽しい企画もいっぱい。

〔 9月 〕

◦**前期試験**－行きはよいよい帰りはこわい。せっかく楽しい夏休みも明けたと思えば試験。新入生にとっては、初めての試験で何かと不安なもんでしようけど、心配することなし。日ごろからしっかり勉強している人にとってはね。

〔 10月 〕

◦**試験休み**－これがあるから大学はやめられない？試験のあとにほっとひと息、２週間の休み。

◦**成績発表**－これまた、初めての時はドキドキするもの。成績が悪いとくやしがっているうちが花。単位を落しても、今度とればいいやと開きなおるようになったらおしまいだよ。

このころにはコース決定のガイダンスがあります。積極的に参加して、しっかり進路を決めましよう。

〔 11月 〕

◦**大学祭**－大学最大のイベント。市中パレード。店出し。もう３日間、夜もおそくまで飲めや、歌えの大騒ぎ。"大学生ならもっとポリシーのある活動を……"なんて言うたのもしい新入生、ほしいものですね。

◦**秋期ソフトボール大会**－深まりゆく秋の中、男女問わず、棒ふりまわしてみるのはいかが。

大学祭も終わったら、ちよっとは真面目に勉強したいもの。クラブや行事に追われがちな毎日だけど、"何しに大学へ来たのかな？"なんて疑問も生まれる。ああ、我の悩みはすんだ秋空に消え、ただひたすらに食欲の秋。馬も太りて我が妹恋し。

〔 12月 〕

◦**冬期休暇**－新入生にとっては、久々にゆっくりしたお正月。聖子も、マッチも、タケちゃんも、みんな楽しいお正月。

〔 1月 〕

◦**共通一次試験**－１年の間に、キミの学力はどれだけ落ちた！？！

〔 2月 〕

◦**後期試験**－前期のような緊張感や、新鮮な真面目さがなくなって、マンネリズムに陥ったりすると手痛いとりこぼしが出るよ。

◦**祝賀パーティー**　総科全体で卒業生をお祝いする日。こちらの計画にも参加して、みんなで卒業生を追い出し（？）ちゃおう。

〔 3月 〕

◦**卒業式**－仰げば尊とし、窓の雪、明けてぞ今朝はこけのむすまで。

◦**春休み**－カエルもオケラも土の中から顔をだすころ、私たちは長い眠りの中へ……zzzz

春四月、新入生諸君を迎えて

57年度コース講座委員長　戸　田　吉　信（ヨーロッパ研究教授）

毎年の恒例だそうで、今年は私が新入生諸君のために一文を草せよという命令を広報委員会からいただきました。本来なら、わが学部の理念について滔々と(?)述べるべきかもしれませせが、入学式以来すでに何度も語られたことについて屋上屋のそのまた屋を重ねる気もないので、私の個人的な回想をまじえて新入生諸君への熱い思いを語ってみたいと思います。

というのも、私は今から30年前に大学に入学し、20年前に大学の教師として駈け出したという次第で、今年の春爛慢は悲しからずやといった若干の感懐があるのです。昭和27年４月、東京駒場の桜は今を盛りと咲き乱れ、政治学、歴史学、フランス語といった課目がいかにも大人の世界の学問のような気がして素直なよろこびを味わったように思います。その実、興味をもちつづけたものはあまりなく、仏文科へ進学することを目指していた私はフランス語だけやっていたように思います。ところがこれがまた難物で、１年生は分厚い文法書を一回に三課ずつ夏休み前に終ってしまわれるし、Y先生には動詞変化表をまるまる一冊おぼえさせられました。そして後期から読んだのが、たしかモーパッサンの短篇集とベルグソンだったと思います。一心同体の観のあった寮の同室の６名も語学だけはそれぞれやっていたように記憶します。

要するに、それは大人の世界でした。まず空間的にそうでした。私は人間の成長段階に応じて異質の空間にはいっていくことが必要だと考えるのですが、今のように小学校から大学まで同じような建物でなく、大学の建造物はちがった世界に来たと感じられるような風格があってほしいとのぞむのですが、こればかりは文部省の基準があるらしく、残念です。フランスのことしか知りませんが、ユレージュ・ド・フランスの威容、ソルボンヌの威厳などは、学問の世界のきびしさを肌で感じさせるに十分です。

ずい分変った連中もいました。授業が開講される日、先生が来られるとのっしのっしと教卓の所まで進み出て、先生と名刺の交換をして豪傑笑いをしていた男。どういうわけか私の身辺に偽学生がいて、よく寮に泊まりに来ていたのですが、彼の友人のもう一人の偽学生（彼は毎年、新宿何丁目かのいわゆる赤線地帯に泊ってそこから東大受験に来るのを常としていました。そして毎年落第するのを）は大衆小説家志望だったのですが、翻訳は原文とは断固別物であるという説を滔々と述べ、自分はドストエフスキーもボードレールもカフカもいっさい読まない。すべてこれらの外国語をマスターし、しかる後に原文で読むんだと言って、われわれを煙にまいていました。それに学問の未来も、天下国家もすぐにでも手中にすることができるような錯覚……

そこに無理に背伸びしようとする精神の思い上った虚勢があることは明白です。そのような精神は現実にふれたとき、容易に打ち倒されるでしょう。私も何度も打ち倒され、挫折感を味わってきました。挫折の連続が私の青春だったのかもしれません。

ただ若干のなつかしさをこめて、私自身の貧しい過去を思い出しているのは、年々、総合科学の新入生諸君がこじんまりとまとまり、受身収志向が強いように思えるからです。他の大学の友人たちと話していると、最近はどの大学のどの学部でもそうした傾向が目立つらしいのですが、われわれの学部の理想からするとそれは非常に残念なのです。

昔とちがって今の諸君は、極端にいえば小学校にはいったときから大学まで進むことを当然のように考えて育って来たと思います。大学も諸君の人生の一つの課程にすぎないのかもしれません。しかしそうであっても大学で勉強することは諸君の人生に決定的な意味をもつはずだし、またそうあるべきです。進むべき方向を一年後に決めてあるのは、決して選択のモラトリアムとしてではありません。一年間、自由に勉強し、考えたのちに、諸君自身の意志と判断で主体的に決めてもらいたいからです。大きくいえば、みずからの運命を自分で切り開いていく気概のようなものを要求しているのです。

別の言葉でいえば、何かある対象にぞっこん惚れこんでほしいということです。惚れこむということは主体的な精神のなす行為であって、受け身の姿勢

からは生じてきません。惚れこんで自分を力一杯ぶつけてみればいい、対象がどうも自分にそぐわないと思えば別の対象をもとめればいい。そうした迷いこそがまた青春というものの本質だと思います。惚れこむべき対象は、大学にはみちみちているのです。諸君の惚れようが、また迷いが本ものならば、先生方もかつては身に覚えのあるはず、よろこんで手を貸してくださることと信じます。

迷いと挫折の青春が諸君のうえにあれかしと祈っています。(主な担当授業科目：ヨーロッパ文学研究)

『飛翔』とは何なのか
——『飛翔』紹介——

編集部

『飛翔』とは一体何なのか？

新入生の方々はもちろんまだ御存じないでしょう。それでは、在学生の方々はどうでしょうか。『飛翔』の存在そのものですが、その存在意義についても御理解して下さっているでしょうか。

以下の小文では、『飛翔』の存在意義をもう一度確認することで、編集部の『飛翔』紹介にかえさせていただきます。

『飛翔』は今を去ること7年前、'75年3月15日に、「学生・教官・事務官の間のコミュニケーションがより一層深まり、そこに相互の信頼に基づいた学部の創造発展の道がひらかれることを望んで」(学生広報委員の創刊の辞より)創刊されました。つまり、三者の意見を交換し、総科をより良いものにすることが『飛翔』の目的であったのです。

ところで、学部創設7年をへた現在でも総科には数々の問題が存在していると思われます。(例えば過去に大きく問題となった、コースの定員問題は、現在はさほど目立ってないものの、総科の根本的な問題だといえるでしょう。)また全学レヴェルでは、総合移転という末曽有の大問題が存在しています。しかしながら、学生側からこれらの問題を問題としてとりあげ、意見を述べる場というものが自治会のない総科には皆無といっても過言ではなく、公式な場として、唯一『飛翔』が存在しているのです。

今いいたい事、いっておかなければならない事のいえる場を提供することこそが『飛翔』の存在意義だといえるでしょう。

しかし、この「いいたいことのいえる場がある」ということは、見方によっては両刃の剣であって、学生側が何もいわない＝いいたいことがないのだ、ととられることになるのではないでしょうか。

もちろん、これは学生の意見をフォローしきれない学生編集部の責任におうところが大きいでしょう。けれども、逆に読者である学生の方々の自覚も必要でしょう。具体的には投稿を待つしかないのでしょうが。特に今年の新入生の方々は確実に移転に関係するわけで、それに関する意見をどんどん出して欲しいと思います。

『飛翔』が『飛翔』しつづけるためにも。

特集

―飛翔するものたちのメッセージ―

――卒業生アンケートから――

総合科学部が設立されて８年、今回で第５期生を送り出すことになりました。

『飛翔』編集部では例年通り卒業生の方々に対して、①卒論の一言紹介、②私の学部観、③講義に対する意見、④大学生活をふり返って、⑤私の学生観・職業観、⑥後輩に勧めたい講義の６つの項目についてアンケートをお願いしました。

先輩達の貴重な経験は、我々後輩、特に新入生にとっては、総合科学部生として、行動してゆくうえでこの上ない指標となり、糧となることでしょう。

またお忙しい中御協力いただいた卒業生の方々には、このアンケート結果が大学生の総決算の一つとして受けとっていただければ幸いです。

それではさっそく卒業生のナマの声を聞いてみましょう。

その１　私の「卒論・一言紹介」

・「**江戸時代の女性像**」－江戸時代の女性は、果たして、しとやかで従順だったのか（地域・田中）

・アメリカの現代作家 **J.D.サリンジャーの諸作品**を解剖、分析して、その中にみられる禅的神秘体験に焦点を当てて、これを心の解放、人間性の回復の瞬間において人間が経験するものであることを明らかにした。取り扱った作品は『ライ麦畑でつかまえて』、『ナイン・ストーリーズ』、『フラニーとズーイー』で、論文の題目は「サリンジャー文学と禅」（地域・渡部）

・これが論文だろうかと自分で疑問に思う。論文というよりも作文といった方がふさわしいのでは。ポスターなんかのコピーが貼ってあるんだけど、カラーにできないのが全く残念だったな。（地域・浜崎）

・**インドネシアの土着宗教と文化との対応関係**について。（地域・――）

・１年間それなりに取り組んできたつもりだが、いざ終えてみると単に文献の要約にしかならなかったような気がする。思うように進まず苦しんだこともあったが、いつの間にかその苦しみが「快感」に変わりつつあったのには、自分でも驚いた。（地域・西田）

・「**日本の風土と食物文化**」－人間の基本生活である衣食住の中でもとりわけ絶対必要である「食」の面からその性質を探ることによって浮び上ってくる特徴は民族の文化全体の特徴をも表わすものであると考え、それを日本の食文化から日本文化を見るという形で考察した。（地域・清野）

・大したことないよ。卒論が全てではないけれど、やっぱり一種の総決算であることには違いない。こう考えると、自分が悲しくなるのでカンベンしてくれ。（地域・岡田）

・「**現代中国語におけるいわゆる受事主語文について**」－この題目からわかるように中国文学科とか中国語学科が書くような卒論である。総合科学部らしさがない。私の場合、六月の第一回中間発表になってはじめて「さて何にしようか」と考えはじめたのであるが、テーマが決まっただけで九月まではほとんど進展なし。十月に入ってふとした思いつきからトントン拍子に事が進み、十一月中旬にはもう提出することができた。早いのだけがとりえの卒論である。（地域・大西）

・テーマは**アメリカの石油会社と外交政策の絡み**について書くつもりだったのはだったけど……はっきりいって力不足でした。（地域・　岡）

・**アメリカ植民地の独立**をテーマに愛国派の指導者の一人を取りあげて考察を試みた。

（地域・肥後本）

・「**公害事後差止訴訟について**」　社会問題とくに人間が生きていくうえでの問題に少しでも首をつっこんでみたかったから、大阪空港訴訟等について私なりに調べて書いております。　（社会・持留）

・「**タイの経済発展と日系企業**」　タイの経済発展に日本からの直接投資が果たした役割と問題点。

（社会・新谷恒内）

・「**現代都市計画と住民〜広島市段原地区再開発問題をめぐって〜**」　指導教官、田村和之助教授。広島市段原地区の再開発を例に取り上げ"住民が主人公となる街造りとは何か"を研究した。

（社会・三好）

・**非行と青少年の価値意識についての一考察**

（社会・中野）

・瀬戸内海の環境保全を法制度の面から検討するため、「**瀬戸内海環境保全法**の実施課程とその検討（仮称）」と題して書きます。大したものにはならないでしょう。決して読まないように！（実際書けるんかいな？）　（社会・掛波）

・**戦後の移住問題について。**三年後期から問題意識の変化で今まで取っていた講義もゼミも関係ないテーマに取組むことになった。しんどい!!　あまりすすめられるやり方じゃない。　（社会・笠井）

・「**情報公開制度における法社会学的検討**」　現在、臨調やいくつかの自治体において検討されている情報公開制度は本当に情報を公開する制度なのか。情報提供制度ではないのか。市民が望む情報公開制度とは何か。　（社会・村重）

・広島県の特産物"**手縫針"製造業**を例にとって、技術と分業、あるいは技術発達の問題を考える。

（社会・土井）

・"大学で何をやったか？"クラブ活動のようにこれといった足跡を残さなかった私にとって、形となって残る唯一のもの、それが卒論。題目「**農産物における産地直結運動の意義再考**」3年の夏休みに書いたレポートが直接のきっかけとなった。内容はとても論文と言える代物ではなく、レポートに毛がはえたもの。　（社会・矢田）

・今卒論を執筆していますが、満足のいくものが書けなくて非常に残念です。卒論の構想は二年時から持っていたのですが、努力が足りませんでした。題目は「**韓国の工業化における財閥の役割と課題**」

（社会・今井）

・"レポート"しか書いたことがなかったので"論文"を作るのに苦労している感じです。自分の"ヘソ"を見つめています。　（社会・原田）

・学問的な意味のあまりないものです。

（社会・田中）

・研究以前の問題である研究スタイルが確立されていなかったためかひどくおくれ、しっかりしたものができそうにない。結局のところ、自分の専門分野の勉強の仕方を学べばよいのだと思う。卒論などというものはいらない。ゼミなどにふりかえてもよいと思う。　（情報・榎本）

・**人の成長を数学的に特徴**づける。並行して**図形処理プログラム**を開発する。　（情報・増成）

・心的変換過程において、心的回転の側面に注目し、**変換過程の条件分析**を行なう。　（情報・岩永）

・いまデータ分析中でいそがしいので一言。テーマ「**社会不安に関する実証的研究**」　興味のある方は2Fの人間行動図書室にありますので御自由に御覧下さい。　（情報・井出）

・社会心理学の一分野。別にいうことはありません。

（情報・酒井）

・論文の形態を借り、科学的分析・論文的用語法を学ぼうとするもの。　（情報・柏木）

・「**生存時間の統計的解析**」たとえば癌などにかかっている患者に治療を施こしたときの生存時間への効果などを解析する統計理論を研究。

（情報・百武）

・**プログラミング言語の変換に関する研究**

（情報・土井）

・「**テキストエディタ及びダイアグラムエディタに関する研究**」　今や新聞、雑誌、何を読んでみてもOAという言葉がでてくる。OAという言葉を知らなければ、あたかも社会の落ちこぼれであるかのような印象を与える。僕のやっている研究は、マイコンを使って英文を編集したり、図形を描いたりする研究で、一言でいえばOAに関する研究とでも言えようか。　（情報・岡部）

・**移動熱発生源（主に車の排気ガス）が気候（局地的）に与える影響**について、交通量と気温との関係、排気熱の拡散の形を調べることなどにより論ずる予定である。　（環境・斉藤）

・純粋な水は電気をほとんど通さず、電解質溶液は電気を通す。これは水の中に解けたイオンが移動することによって電気を流すからだ。また固体の導電体は自由電子が動くことによって電気を通すのは知られている。ここで固体でありながら自由電子でな

く電解質溶液と同じように固体中をイオンが動いて電気を通す物質がある。Superionic Conductorと呼ばれるこの物質中をはたしてイオンはどのように動いていくのだろうか。（環境・藤）

・私の場合は、**都市内部に於ける公園緑地の存在効果**というものを、微気象的な観点から調べてみようと思っていた訳ですが、どうも生来の無計画性の故、今回の卒論も思うように事が運んでいない現状にあります。現在行なっている大学構内での気象観測は秋場に入ってから始めたものですが、せめてこれが無駄な努力に終わらない様にしたいとは思っています。（環境・今泉）

・生化学ミクロソームの電子伝達系の酵素反応について**再構成系にて反応機構**を考える。

（環境・伊藤）

・**アカマツの根が山火事後腐ってゆく度合を測定**する。これは土砂崩れなどの防災と密接に結びついている問題だと思われる。（環境・中川）

・しんどいです。（環境・山内）

・目的：**大きなシステム（社会・生態系）の安定性を調べる。**小目的：食う生物と食われる生物の「固体数の振動現象」・「系内の多様性」・「生物の得る情報の処理」と系の安定性について考察したい。……ちょっと欲ばっているけれど…（情報・糸井）

その2 私の「総合科学部観」

◦総合科学部の特色である学際的研究は一般学生にとっては少し無理な点もあるので、学生の専攻を中心に考えて、可能ならば学際的なものをやっていくことにすればよい。他の学部が早い時期から専門に取り組むのに対して、総合科学部の学生はもっと一般教養を身につけて、専門に閉じこもらずに広く学問をするべきである。そのようになれば総合科学部は非常に有意義なものになると思う。

（地域・渡部）

◦内から見ても外から見ても、もやがかかっていてはっきりしない。何なのかわからないってところがあるけど、それだけ興味津津。柔軟で、包容力のある人間的な学部。それが総合科学部です。

（地域・浜崎）

◦パッパラパーで明るい。でも自分を持っている。いろんなことをやっている人がいて、いろんな人（全国の）に会えるのが楽しい。（地域・田中）

◦我が地域文化コースの場合、次の2つの学問方法があると思う。隣接分野にわたりながらも1つの専門分野を深く勉強していく方法。地域研究の名前どおり、一定の地域を多くの学問分野から研究し、それを総合的な立場から考える方法。しかしながら、現状ではどちらも行われていないようである。それは、体系だった指導が行われていないためと思われる。また、学年間の交流もあまりないようで、先輩が後輩を指導することもなかった。（地域・A）

◦良く言えば自由放任主義を貫いている学部。そこにアィデンティティを見出そうとしているうちは、嫌な面ばかり見えるが、一旦それに固執するのをやめると結構「こんなものじゃないかな」と思えてくる。（地域・西田）

◦自分の興味の対象をまわりから制限されることなく追求できる。反面、その自分の関心がどこにあるかを把握できていない者にとっては暗中模索状態が続く苦しい立場におかれる。幅広くつまみぐいはできても何かひとつこれというものを身につけることが極めてむずかしい学部だと思います。

（地域・清野）

◦現代のような多様化社会において、ある問題を総合して把握する必要が増大する一方、その困難さも増加する。この混迷の中で流されないためにも自分の意識をはっきりさせる必要がある。学部は若く、システムは上手く作動しているとはいえない。だが個々の先生は優秀な方がそろっている。とにかく先生にくらいつけ。（地域・岡田）

◦本学部では、他学部と異なって二年次以降に自分に適したコースに進むことができるという恵まれた環境にあるにもかかわらず、これを十分に生かしきれず、自分が本当に志す学問分野も見い出せないまま、中途半端に学生生活を過してしまう者が案外多いのではないかと思う。また、共通一次世代の学生は幼稚化が目立つ。（地域・肥後本）

◦なんでも屋。ユニークかつ真面目な人間の集まるとこ。やる気十分勉強十五分のパターンの定着。それにしても文系の先生とはなかなか仲よくなれないとこだった。（地域・岡）

◦総合科学とは一体何なのか結局わからない。私はこの4年間で中国語だけしかやらなかったような気がする。確かに専門分野として政治学・国際法etcをとったが、それらについては今ほとんど頭に残っていない。アジア研究の必修科目もそうであるがどれもあまりに簡単に単位をくれすぎる気がする。こんな風に教官陣が甘いから学生（私も含めて）がつけ上がって何も勉強しないままに卒業ということになるのだ。総合科学部が総合的な知識を持った学生を育てようとするなら教官がもっと厳しくすべきである。総合科学部卒業生に法律のことを聞けば、法学部生だし、文学については文学部生並だという具合に様々な分野に関してひい出た学生を育ててほしい。もし今のままなら、教養部とかわらない。

（地域・大西）

◦とにかく居心地のよい学部である。歴史がまだ浅いというハンディはあるが、学生一人ひとりがもつと自分たちに自信を持つべきだ。（社会・三好）

◦大いなる可能性を持った学部。総合科学部の持つ自由を学生がどのようにいかすかによって、総合科学部の将来は決まると思う。（社会・今井）

◦総科生って他学部生からの印象が悪いようだけど何故でしょうか。一般教養もやっているし、学部としての独立性に欠ける感じ。（社会・中野）

◦現実の問題を総体として取り組める学部じゃないかと思う。やっている本人は支離滅裂で自己崩壊の危機におちいるが、そういう不安定な長い時期を過ぎると、「アッ、これが総科なんだ」という一種の思考経路ができあがってくる。これが財産と思う。学生生活としては皆がバラバラなことやっているのに連帯感があったのがうれしかった。コース内だけでなく、この輪を学部全体で継続させたかったが……。（社会・笠井）

◦一般的にいって、総科生は「よく遊び、よく遊ぶ」といったイメージがあるが、今後はこれを、「よく遊び、よく学ぶ」といったイメージへと変えていかなくてはならない。総合科学を目ざすならば、他学部生と同じレベルで勉強していたのではダメである。諸科学の十分なる基礎の上にたち、斬新な総合科学を構築していただきたい。広島大学を代表する総合科学部といえるように。（社会・掛波）

◦私自身学部に対する強い認識がなくて入ったためずいぶん精神的に苦労した面もありましたが学部の存在は肯定します。ただ法・経学部に比べ就職指導が悪いのではと感じました。（社会・持留）

◦楽しい場&時を提供してくれた機関。

（社会・田中）

◦♫ ハナシノ　タネニ　ソウカニ　オイデンサイ　サケハ　ノメノメ　ヤリマクレー……（ソリャ）　ニッポン　イチダヨ　ソウゴウカガクブ　サアサ　ウタイナ　サアサ　オドリナ　チョイトマア　ソウカブシ

（社会・原田）

◦広く浅く……公務員になるには良い学部じゃないですか。学際的研究……？　団結の社会53生（！）

（社会・新谷垣内）

◦目うつりがするほど広い間口を持った学部であるだけに、「考える」という行為を怠っていると、いつのまにか「もう卒業か！」ということになる。そういうところ。（社会・土井）

◦教官と学生とのギャップがいろんな意味において大きい学部。（社会・村重）

◦「総科とは何か？」の答えは、各種パンフレットを見て下さい。私が言えるのはただひとつ。「総科へ来て良かった。」（社会・矢田）

◦広く浅く、与えられ、その中から、自分で深くするものを見つける所。（情報・百武）

◦自由で何でも勉強できるし、そういう面ではたいへん良いと思うがそれだけに自分をしっかり持っていないと目標がわからなくなったり、自分が何をしてきたのかわからなくなる恐れがある。

（情報・酒井）

◦他の学部にはいることができなかったもののなぐさめ的な学部。一筋通っていないので非常に残念。

（情報・岩永）

◦学問のごった煮。アクが多い。うけ皿と中味がマッチしていない。また食べあわせがうまくいっていない。（情報・柏木）

◦学部に入ってから専攻が幅広い分野から選択できてよい。（情報・増成）

◦ホンネとタテマエ、現実と理想、生物的欲望と道徳。私たち人間はいつもこの2つの間をボールのように行き来してそのラリーは永遠に続くように思われる。総合科学部も、この2点間をさまよっている。しかし、さまよっていること自体は悪くはない。もし1点しかなかったら、鉄砲玉の如く、もどってはこない。（その方が気は楽かもしれないが……）いつだって理想は持ち続けなきゃ。人間だって、理想を追わなくなったらふけ込んじゃうよ。

（情報・井出）

◦とても学際的とはいえない。学生自身がすること

かもしれないが、方向づけは与えるべきだ。理学部や文学部でやっていることとかわらないところもある。（情報・榎本）

◦え、もう8年もたったのですか。すると4年間という学生生活は個人的には短いものですが、学部の歴史の半分を形成してきたことになります。

（情報・土井）

◦和気あいあいとした雰囲気があって、その点は良いと思う。しかし、今さらながら思うことであるが、もっと厳しい所があっても良いのではなかろうか。しかし、大学という所は自分で勉強する所だから、大学側にこのような事を要求するのはスジ違いか？

（情報・岡部）

◦自由で何でもやれるが、自由すぎて何もできない場合もある。（環境・山内）

◦在学中の自分の進路を決めることができて、僕としては成功したと思っているが、一年次にもっと大胆に、各コースの紹介、各研究室の研究内容、将来の展望、これまでの卒論内容を学生に紹介すべきだ。現在の各コースへの志望人数のかたよりも解消されると思う。各コースの内容をあまり理解せず、表面的な事柄でコースを決定しているものが多い。

（環境・藤）

◦やる気になればなんでもできます。

（環境・伊藤）

◦現代社会においていろんな知識を持った人間が要求されているということで、大げさに言えば時代がつくった学部という感じがする。ただ現在の総合科学部というのは、いろんな知識は得られるが、各知識間につながりを持たすことができてないように思える。知識がいくら豊富でもそれがバラバラになっていては意味がないので、それをつなげることを可能にする学部になればいいと思う。

（環境・斉藤）

◦私自身が総合科学部で4年間過ごしてきたことに対する反省も含めて、当学部の現状を考えてみると、「学際的研究」という理想的な状態にはまだ至っていないように思われます。他学部のことはよく存じませんが、当学部では各分野に亘る授業が、学生の側で比較的自由に選択できるという利点があります。ところが、その自由に甘んじてしまうと、せっかくの利点もマイナスに作用してしまいます。問題は、「如何に多くの分野の授業を受けたか」ではなく、「如何に各分野の授業内容が個人の内部で有機的関連を持って統合されたか」にある筈です。学生の側もそういう自覚を持つことが必要であるし、又、教える側もそのような意識を高めることのできるような授業計画の改善が必要になってくると思われます。

（環境・今泉）

◦個人個人がやっていることは理学部とあまり変わりないが、自分の専門に入る前にいろいろな分野の勉強ができるということと、チームを組んで、総合的に研究ができるということがメリットかなあ。

（環境・中川）

◦①「学生が自分でやる事を見つける。」方法を身につける場であって欲しい。②いろいろな人がやっている「研究」や「もの？」の交流の場であって欲しい。（一人よがりな研究でなく、それを伝えようとする人に、分かってもらおうという気が感じられる研究を！）（環境・糸井）

その3 「講義」について

◦私の場合、講義の聴き方が大部分受動的であったので、そのことが惜しまれる。講義をされる先生方も、わかりやすくておもしろく、また、ためになる講義をする必要があろうし、学生側も常に興味を持って熱心に聴かなければならない。しかし、学生の知的好奇心はまだ未熟なので、全ての講義を興味深く楽しめるはずがない。一方で読書等を通して自分の知的枠組を拡大しておく必要があろうと思う。

（地域・渡辺）

◦地域文化の場合、ゼミが多すぎるのではないかと思う。（地域・A）

◦ひとつふたつ、積極的に参加するものを決め、あとは聞くだけのもの、眠ったりさぼったりできるものを、段階別に頭の中に整理し、好きなこと（本を読む、クラブをする、遊ぶ）をしょう。かえって勉強になることがあるんじゃないかなぁ……

（地域・田中）

◦私はまじめな学生ではありませんでした。講義も

よく自主休講にしました。でも、よくないことだとわかっています。講義は学生がいなけりゃ成り立たん。私一人ぐらいいなくても…なんて消極的で受身である証拠。単位が必要な限りはねえ…。でも。

（地域・浜崎）

◦とにかく聴いてみること。だが思うけど、授業だけのつきあいじゃ、発展性はないでしょうネ。自分たちで勉強会をつくるのもいいし、先生の部屋にたずねていくのも有益です。そうすれば教室で話せないことでもスンナリ話せるでしょう。

（地域・岡田）

◦特にない。敢えて言えば、講義ごとに適宜に参考文献を挙げてもらえればよかった。（地域・西田）

◦右の耳から左の耳へぬけていった講義が多かった。

（地域・清野）

◦すばらしい教授がそろっており、おもしろい（ユニークだという意味ではない）講義が多いが、いかんせん、学生が一般科目の延長の気分でいるし、教官もそんな学生に失望したのか全く厳しさがない。

（地域・大西）

◦大学の授業には余り期待してはいなかったが、大学の教官をProfessor と呼ぶのであれば、せめてprofess ぐらいはして欲しい。無気力な講義は無気力な学生が生んだのか、無気力な教官が生んだものか？（地域・肥後本）

◦一般教養はサボルもの、専門は切り抜けるもの…と思って来たから、あまり言うことはない。が、専門に入って教養の必要性を悟ると同時に、一般教養の講義のいい加減さがよく解った。（地域・岡）

◦集中講義が好きでした。なんと言っても1週間で2単位が取れるというのが魅力。それに、その1週は、そのテーマについて、みっちりやったという感じだったし、本も読んだみたい。（社会・原田）

◦ただじっと座って話を聞くばかりでなく、フィールドワークというか、動きまわって実際に自分の目で見、耳で聴き、そして試してみるような講義を望む。（社会・村重）

◦講義は基本的に学生にとっては受身的性格のものだと思うが、そのしがらみをいかに切り抜けるかは各人が考えて実行するしかないみたい。

（社会・土井）

◦ひとつひとつの講義を云々するつもりはないし、その資格もない。ただ、授業のカリキュラムの編成等は、さらに改善の余地があるのではないか。特に必修のプロ通。プログラミングの知識、コンピューター使用が今日重要なのは学生達もわかっている。一度に百人以上の学生を対象に、週1回、わずか半期では身につくものも身につかないのでは。例えば文系、理系に分けるとかして、密度の濃いものになることを期待する。（社会・矢田）

◦自分の中に問題をもって受講するのと、ただ慢然と聞いているのとでは、同じ講義でもえらく差がある。自分にとって大切な講義は本当に大事にしていく姿勢が求められると思う。教官に顔を覚えられるような存在になったら、一応、受身からは脱皮できるのではないか。（社会・笠井）

◦関心のある、又は、好きな講義は徹底して取り組みAをもらう。単位の必要なだけの講義は適当にサボりCでもいいから単位をもらっておく。以上は、学問の範囲の広い総科で、4年間、うまく充実した学習（？）をやっていくのに必要不可欠なことなのでは？（社会・持留）

◦やはり、単位認定が甘いのではないでしょうか。友人のノートをコピーして、試験に出て、何か書けば単位がくるというのは、どうかと思います。講義の内容については、総科の先生の講義は一般的にすばらしいと思いますが、もう少し実践的な力がつくものとか、野外調査とか、変わったものを取り入れては――と思います。（社会・掛波）

◦講義に対し、これといって期待していなかったため、失望も感動もなかった。理想を言えば、学生は何でもいいから少しでも教官から学び取ってやろうという貪欲な姿勢、教官は学生に良い意味で刺激を与えてやろうという熱意で、お互い接することができれば最高だと思う。（社会・三好）

◦「気合」－受ける側にとってのーが入っていれば面白いもので、つまり、ボウリングと一緒だと思います。（社会・田中）

◦プレハブでの講義（特に冬場）というのは、どうもねぇ… 興味深い講義もあれば、自己満足的時間つぶし的講義もある。大研究者必ずしも名教授ならず。それはそれでいいとして、案外、講義の選択範囲は狭いようです。（社会・新谷垣内）

◦講義に関しては、何も言う資格がありません。

（社会・今井）

◦特に意見として言えることはありません。

（社会・中野）

◦体系的な講義を重視しなければ、興味本位の週刊誌的なものになってしまうだろう。カリキュラムがずさんだと思う。（情報・岩永）

◦体系だっていないため、魅力、学力ともに半減してしまう。もっと有機的に統合させて、かつ、身にしみこませねば、なにもならない。興味本位のものを実のあるものにして欲しい。（情報・柏木）

◦卒業単位に達するまでの講義は、足かせであり、十字架であった。卒業単位の修得がほぼ確実になってからは、講義は、教養講座的色彩が強くなり、やがては、他では顔をあわすことのできない者同志のコミュニケーションの場となった。要は、本人の気の持ち方次第である。（情報・土井）

◦2年の頃はよく講義をさぼった。しかし、このままでは大学で何を学んだのかわからなくなると思い3年からは、講義は殆んど全てと言ってよい程出席した。授業に出席していると、講義もわかりおもしろくなってくるので、やはり、講義は出席するものである。（情報・岡部）

◦内容の割には100分は長い。他の講義との関連は、学生便覧に書いてあるだけで、実際はつながっていない。関連分野やより高度なものへの参考書等の紹介がなく授業のみですんでしまう。演習は、自主性に任せすぎ、ついていけないものも多い。（情報・榎本）

◦聞いていて非常におもしろいものとそうでないものとの差が大きい。一般の授業では、講義を聞いているときには、さっぱりわからなくても、3、4年になって、ああ、あの時の話はこのことだったのかと思うことが多かった。やはり、講義を聞く学生もその講義に関する本を1冊か2冊は読んで、予備知識を持っておくべきだと思う。（情報・酒井）

◦教壇にテープレコーダーを置いておけば間に合うような講義があるのは残念。（情報・増成）

◦「単位が必要だから」という気持ちだけで臨んだ講義は、いかに教官が懸命であっても、少しも面白くなかった。「単位が必要」だが「この点について自ら明らかにしょう」という目標があった講義は、今でもよく覚えている。講義の最初に、教官がスケジュールについて述べるが、それに合わせて、その講義に対する自分の目標を持てれば、面白いし、確実に自分が学んだものとして身につくし、いいと思う。（情報・井出）

◦総科は自由に講義がとれると言っても、対象や、その講義の目的、内容が自分にとってピントはずれだったら、ひどい目にあう。それを無くすため、講義を週4時間単位にするとか、時間数を減らすとかして欲しい。そうすれば、系統的なものが期待できるのではないでしょうか。（情報・糸井）

◦単位さえ取れればよい。（環境・山内）

◦講義は題目にだまされてはいけません。先生の話を聞いてみること。そして、自分に合った講義を取ること。要は、題目を見ず先生の人間を見ること。それにつきる!!（環境・伊藤）

◦自分と性格の合わない人とつき合うことは、結局自分にとってプラスになるのと同様、どんな講義にも何かしら得ることがあるはずで、はなから敬遠せず、何か自分のものにしてやろうという気で、講義を受けるべきであると思う。（環境・斉藤）

◦特に総合科学部の場合は、計画性を持って講義を選択する必要があると思います。自分が何をやりたいのか、そして、その為には如何なる知識が必要なのか――そういう心構えの下に、自分の受けるべき講義を選択して欲しいと思います。（環境・今泉）

◦学生の自主性にまかされた内容がほとんどで、割といい講義が多い。（環境・中川）

◦現代の研究の最先端の情報を面白く、かつ、総合的に紹介する講義を設けて欲しい。具体的に言うと光ファイバー、光通信、インターフェロン、人工受精など。これにかぎらず、現在の大学、研究機関でどのようなことがやられているのか、ということを大学生に紹介するのは、学部時代にコースを決定する者にとっては、意義のあることだ。現在の総合科目をより一歩進めて、学生の興味をそそるようなものが欲しい。（環境・藤）

◦講義は聞くだけのもの。セミナーは発表するもの。力をつけたいなら、学生だけででもいいから、セミナーを開くのがいいと思う。（情報・百武）

その4

大学生活を振り返って

◦やっと大学生活が充実してきたと思ったらもう終りを告げようとしていた。これが実感です。
（地域・肥後本）

◦とにかく何でもやってみた。楽しかったよ。「女の子が4年制大学行くなんて……」と言われても、私にとっては最高の勉強になった。できるならもう一度やってみたいけど、今度は新鮮味がないだろうなあ。（地域・岡）

◦学問的な点から言えば、私は総科で4年間過ごしたことを後悔している。私にとって総科は学問をする場でしかなく、その他の活動は全てクラブ（アーチェリー）と関係した。4年間クラブをやってきたということは、とてもいい経験になった。
（地域・大西）

◦反省点をあげればきりがない。でもまあ念願のヨーロッパ旅行も冗談のように果たせたし、満足。しかし4年間のなんと短かかったこと。外見と中身はそれ程進歩しているようにないのに年だけは確実に増えてゆく。（地域・清野）

◦勉強以外のこと（クラブ）に熱中しすぎた感あり。でも得るものは大きかったと思う。（地域・田中）

◦クラブが中心の生活だったけど、おもしろかった。決して賢くなったとは思わないし、満ちあふれる程の教養が身についたとも思わないけど、最高ス！
（地域・浜崎）

◦大学入試以前に抱いていた大学に対するイメージが壊れかけながらも、最後までその残骸が私の頭の中にあって、常に私の生活を規制していたように思う。そのイメージとは「大学は学問の場である」というようなもので、そのために自分が学問をしているのかどうかを自らに問うことの連続であったと思う。しかし、この四年間をふり返って、あまり後悔するようなことはないようだ。（地域・渡部）

◦4年間楽しかったが、4年までは、それはクラブに所属していたからである。総合科学、地域研究について、1、2年の段階でもう少し考えておけばよかったと思う。（地域・――）

◦もう4年たつなんてとても信じられない。何をしてきたのかもよくわからない。（地域・西田）

◦短かかった。今振り返れば、アレができた、コレができたんじゃあという後悔ばかり！でも高校までの生活にくらべると格段の違いがある。主体的に生きるって、苦しいこともあるけれど楽しいもんです。真の意味で友もできたし、学者さんにも会えたし、我が22年間の最良の時でした。（地域・岡田）

◦大学にきて本当によかったと思っている。大学での勉強は非常に不本意なものだったが、大学の内外でいい友人に恵まれて、いろんな意味でいい経験をさせてもらいました。Animal トリオは永遠に不滅です！（社会・今井）

◦勉強しない割には、遊び足りなかったようです。一言でいえば「中途半端」でしょうか。
（社会・田中）

◦贅沢をいえばきりがない。学問、クラブ、そして自由時間には好きなことにも打ち込むことができ、友人もいい人にめぐり会うことができた。幸せな4年間だったといえる。（社会・三好）

◦いろんなことをやったけど、もっといろんなことができた気もする。後悔だらけ。（社会・中野）

◦ものすごく忙しい4年間だった。別に無理じいされているわけじゃないから休めばいいものを、そんなこともったいなくて、ただがむしゃらに日々を過ごしていた。悩むことすら楽しんでいたのだから、幸せだったのだろう。（社会・笠井）

◦まるで勉強らしいものをしなかったので、そのつけが卒論を書く今となって回ってきた感じです。そのかわりといっては何ですが、クラブを4年間やったというのがやはり大きい。クラブは皆さんやるべきですよ。（社会・掛波）

◦もう少しアルバイトも恋愛もしてみたかった。広大にもう少し女の子が欲しい！（社会・持留）

◦4年で出てしまうにはちよっとおしいけれど、5年もいると退屈です。（社会・原田）

◦総科へ来てよかったと思います。
（社会・新谷垣内）

◦長すぎた春。（社会・土井）

◦運動クラブに入っていたので、大学生活イコールクラブ生活であった。その意味では、非常に有意義だったと思う。（社会・村重）

◦大学生活が何であったのか、というようなことは

就職できたか否かで決まるようなものではなく、一生かかって回答が出されるものだろう。大学生活、ふり返れば、本当にアッと言う間という気がする。欲を言えばきりがないが、それなりに満足のいく4年間であった。（社会・矢田）

◦自分に対する実験的な4年間。クラブにあけくれた毎日。広大の学生はもっとアカデミックで活動的になるべきだ！（情報・柏木）

◦時計のふりこの様に家と学校を往復した4年間だった。後輩のみなさん、絶対、大学4年間で私はこれをやったということをしておかなければ、就職試験の面接の時非常に困ると思います。

（情報・酒井）

◦大学祭がこれほどつまらない大学もない。総科ではたてのつながりがなく、部活に逃げる者もいたし。やっとすごした4年間。（情報・岩永）

◦ただ結果のみである。計画性、展望にかけたものであった。（情報・榎本）

◦1、2年は何となく無意識のうちに時が過ぎたが3、4年は割と充実していたような気がする。1、2年の間の様な生活を4年間していたら、今ごろはきっと残念な思いをしていた事だろう。3、4年が充実していたことが、僕にとってせめてもの救いである。（情報・岡部）

◦満足。（情報・増成）

◦時よ止まれ。君は美しい。もっと時間を

（情報・土井）

◦1年、ボーッとしてる間に過ぎ去り、2年、沈んだまま浮上せず、3年、浮かれすぎて疲れ、4年、陰気な生活を送る。（情報・百武）

◦1、2年次に、何もせず、ただ大学に通っているだけの生活は、その時は感じなくても、味のないものかと3年次に考え、それから、バイト・遊びなどできるだけいろいろなことをやろうと努力した。もっと早くから目覚ればよかったと思っている。特に1、2年次は、時間の余裕はたっぷりあるので、もっといろいろなことにチャレンジするように薦めたい。（環境・藤）

◦クラブに入ればもっと良かった。（環境・伊藤）

◦私の場合は弓道部に所属していた為、大学生活を思い起こしてみると、どうもそちらの方の比重が大きいようです。かといって、部活動を精一杯やったかと問われても、どうも自信がありません。とにかく何でもいいから何かこれだけはやった、というものが今一つ見出せないのが心残りです。あと残り少ない大学生活ですが、何か一つ自分で満足のいくようなことをやってみたいですね。（環環・今泉）

◦全々勉強しなかったし、5年間かかっちゃったけど、いろいろなことができたし、自分もある程度成長したと思う。（環境・中川）

◦楽しく、かつ、苦しい時も少しあった。

（環境・山内）

◦勉強とクラブを両立させようとしたけれども、今ふりかえってみると、クラブが中心になり勉強の方が中途半端になってしまったことが悔やまれる。しかし、クラブを4年間やることによって、普通ではできない、団体でしか味わうことのできない数々の経験をすることができ、完全ではないが、ある程度充実した大学生活が過ごせたと思っている。

（環境・斉藤）

その5 私の学生観・職業観

◦学生観－自分をみつめ、個性をのばす、人間形成の場。職業観－社会参加。（地域・田中）

◦大学時代ってとてもいい。特に私たちのように恵まれた生活を過ごせるのは。人間をおもしろがれるのって学生の間だけなんじゃないんだろうか。職をもっと、現実の人間関係にふりまわされて、おもしろがっている余裕なんかないんじゃないだろうか、とかすかな不安がある。（地域・浜崎）

◦大学になぜ行くかと言えば、やはりより立派な人間になるためであって、自己完成をすることが常に念頭にないといけない。従って学生時代は自分の本当に打ち込めるものを模索する時であって、月並みな表現だが、失敗を恐れずに試行錯誤を重ねていって、自らを確認することが大切であろう。大部分大学で学ぶのは科学であることを知っておく必要があろう。科学は一方法としてよりよい理解に達するために便利である。が、一方で自分の感じ、手ごたえを大切にすべきだと思う。時に職業を選択する場合は大事になってくると思う。（地域・渡部）

◦学生観－現状から、もう少し勉強すべきと思う。

職業観－自分の職業以外にも、様々な事が出来る職業がいいと思う。　（地域・　）

◦学生観－やりたい事がやれる時、何にでもチャレンジしてみる。職業観－自分を生かせる職業につければ最高だけど現実はそう甘くない。がまんの連続かもしれない。だけどそれは仕事と割り切って、なんとかお金をためてまたヨーロッパへ行きたい。
（地域・清野）

◦学生とは物質的には恵まれていなくとも時間だけは十分にもっている「高等遊民」であると思う。
職業とは生活の糧を得る手段。　（地域・西田）

◦広大生は（私も含めて）バイタリティーに欠けている。何事をするにもいいかげんで、自分勝手に判断して中途でやめてしまう。受動的な人間ばかり作られているようだ。水を与えてくれればそれを飲むが、自分からは決して"水を下さい"とは言わない。与えてくれなければ多分4年間ずっと水を飲まずに過ごすであろう。　（地域・大西）

◦学生という商売は責任をとらなくてもよい分自由で、自分の欲しいものにむかって進んで、何でも自分の中に取り込む時。仕事をもったら取り入れた分に見返るような結果を要求されるとき…と思う。
（地域・岡）

◦学生は学生であるが故に社会から隔離され甘やかされている。大学が再生し、学生がその「遊民化」に終止符を打たない限り、日本の歩む前途は険しい。
（地域・肥後本）

◦学生は「ボートを漕げ」　（社会・土井）

◦学生観－根なし草
職業観－生きがい　（社会・村重）

◦学生観－今日では、奨学制度や授業料免除の制度等があるとはいえ、大学へ行かせてもらえる学生は、私も含めてある意味での「特権階級」。ハングリーな人より甘えん坊が多い。（もちろん私も甘えん坊）
職業観－すぐ「きびしい」という言葉を連想する。本当の意味での忍耐を必要とする世界、金のため、とわりきれる人は良いが、「妥協」という言葉がきらいな人にはジレンマの世界。（私が臆病なのかもしれない）　（社会・矢田）

◦学生の時にしか出来ない事がたくさんあるはずです。私は多くの人と知りあい、話をすることによって自分の価値観が大きく変わったような気がします。いつも同じような生活ではつまらないし、せっかく大学に来た意味がないのでは。仕事といいますと、ありふれた言い方ですがやりがいのある仕事がしたいと思います。もちろん、それができる会社を選びました。　（社会・今井）

◦学生というのは社会が育ててくれようとする人材。与えられたチャンスを最大限生かす方法を見い出すのが使命と思う。職業人は、やはり勉強の続きだが、育てられた分社会に還元して次の世代のために働くという意識も出てくるのでは。　（社会・笠井）

◦とにかく、自分の信念を持つことです。学生ならば、何を学ぶのか、社会に出れば仕事を通じ自分は何をなすのか。それが大事だと思う。単位のために勉強する、飯を食うため働くというのはつまりません。　（社会・掛波）

◦4年になって授業はろくになし、遅寝遅起きの毎日。果たしてこれで就職して大丈夫なのでしょうか。
（社会・新谷垣内）

◦学生観－親不考だと思います。職業観－親考行の為になるものを考えます。　（社会・田中）

◦現在の学生はいわゆるパープリンが多すぎる。職業は自分の一生を賭けるものだから、妥協したり、仕方なしに決めるものではない。　（社会・中野）

◦学生観－「特権階級」かと錯覚させられるまどろみの頃。職業観－一介の「プロレタリアート」であることを覚醒させられる寝覚の床。（社会・原田）

◦学生でなければできない事はたくさんあるはず。「今」しかできない事はどしどし「今」のうちにやっておくべきだ。職業は生活のためのものだが、それがたまたま世の中のためになるなら、それ以上のものはない。　（社会・三好）

◦大学は所詮4年間（人によっては5～8年程度）居るだけの所。自分の可能性を試せばいいのでは？職業は生活の糧。社会人でない私にはよくわからないが、きつくても自分の関心のある事をできる人は最高の幸せと思います。　（社会・持留）

◦4年になって卒論の事を考えると早く卒業したいと思うが、就職が決まるとまだ卒業したくなくなった。学生時代、湯水のようにあふれているのはやはり時間だろう。それはどう使おうが、カラスの勝手だが「何とかうまく利用できるだけ利用しよう。とにかくやってみたい事は書き出してかたっぱしからやってみたら？」私はそんな感じで4年を過ごしたがもう4年くらい欲しい気がする。諸君も悔いを残さぬ様、頑張ってね。　（情報・井出）

◦学生観にしても職業観にしてもとにかく自分がやりたい事、やらねばならない事を明確に打ち出し、それに沿ってやり進むことに尽きるのではないかと

思っている。　（情報・斉藤）
◦今しかできない事は何か、よく考えることだ。単位、金は何とかとりかえしがつくが、時間だけは、取り返しがつかない。　（情報・増成）
◦学生は何年間か遊んで虚構の世界を充実させる。社会に出たら現実世界とその虚構の世界をバランスさせておまんまを食べていく。大学とは、自分の可能性をためし、それが夢とわかる所。またはうまく現実に妥協するところ。　（情報・柏木）
◦明治、大正、昭和初期が理性の学生と思う。今の学生は私も含め、勉強しなさすぎる。職業は自分の納得できる所で働くのが一番だろう。まだ働いていないのでよくわかりません。　（情報・酒井）
◦バカでもいいからスペシャリストになるべき。
（情報・岩永）
◦「大学は遊ぶ所」という風潮があるが、よく考えてみると大学は学問の場なのだ。何かに熱中していて勉強がおろそかになることは、それはそれとして価値ある事だと思う。しかし、それを口実にして勉強をしないというのは最底と考える…言いすぎか？
（情報・岡部）
◦そもそも個としての人格が確立されている以上、理想論的学生観というものが存在するとは思わない。だから「最近の学生は…」とかいった固定観念は無意味だし当事者に失礼だ。「学生は自由だ」という評価もあたらない。社会に出てからも、心がけ次第で自由であり続けることはできる。もっとも、自由と気ままは別ものだが…。いたずらに色分けする必要はない。水の流れが澄んでいれば冠の紐を洗えばいいのだし、濁っていれば、足を洗えばいいのだから。　（情報・土井）
◦大学の中の人は、社会と隔絶しているせいか、やっている事・生活等がピントはずれのような気がする。職業は、生きているという実感のもてるもの、「自分で社会や生活を考える。」という事を取り戻せるものにあこがれます。　（情報・糸井）
◦学生観－より多くのモラトリアムを欲する存在。職業観－面白くなければならない。かつそれに対する環境がなければならない。　（情報・榎本）
◦自分が興味をもっていることができて、それでメシが食えたら、何も言うことはない。そのために学生の時がんばらなくては。　（情報・百武）
◦まだよくわからぬ。　（環境・伊藤）
◦学生の時は何にでもチャレンジできる。と共に、将来の職業を選ぶ時期でもあるからこそ、いろんな事をやってその道を選ぶ。自分の一生の仕事には、自分で誇りを持ちたい。その道のスペシャリストになるように努力したい。　（環境・藤）
◦学生は、ある程度自由であるが、私の場合、親に甘えていた面があった。職業についたら、もっと自立していきたい。　（環境・山内）
◦最近、特にクラブに入ってきた者をみると、裸のつき合いというか、自分の持っているものをこちらにぶつけてくるやつがあんまりいないなぁ…という感じ。　（環境・中川）
◦大学は居心地のよい処ですが、その理由だけでいつまでも世間の冷たい風から保護されていてはいけないと思います。自分に対しても申しわけない。ただし職業といっても生活の手段、と割り切って、やりたい事を途中で断念してしまうことのないように、と考えています。　（環境・今泉）

その6

後輩にすすめたい講義 ―私の一言―

◦環境の鈴木先生の微生物学概論。密造ワインの作り方を教えてくれる。医学部の指定だけれど、中学理科みたいにカビを見せてくれたりして……本当に面白かったです。（地域・岡）

◦地域の志邨先生のアメリカ史特別演習。とにかく厳しい。知識の全部が試される。私は4人で受けて毎週あったってエライ苦労した。でも、やれるだけやってみると力のつくこと受け合い！（地域・岡）

◦第四紀学、地形学。視野が広くなる。人間がおもしろく、また地球がいとおしくなる。何よりも堀先生が人間的な魅力にあふれている。（地域・浜崎）

◦アジア民族学。理路整然としている。演習では英語力がつく。

◦地域研究実習。稲刈りの真最中、土橋（芸北町）での調査。あの貴重な体験は忘れられません。（地域・田中）

◦心理学。人間の心について考えるきっかけをつくってくれる。特に学生は心の問題で悩む人が多いので……。（地域・渡部）

◦文化人類学。文化人類学的な視点に立つと、他の諸学問との関係、接点等が見えて、非常に得をする。（地域・渡部）

◦志邨教官のアメリカ史。現代史を考察するうえでアメリカ合衆国の歴史を概観しておくことは有益である。（地域・肥後本）

◦英米文学特別演習Ⅰ。受験英語から、Living English への脱皮の一助として有効。（地域・肥後本）

◦戦争と平和に関する総合的考察。問題意識を発掘するという意味でも得るところは大きい。それに教官陣がすばらしい。（社会・笠井）

◦山下（彰）先生の国際開発論：開発途上国論。現在問題になっている南北問題、貿易摩擦等について比較的わかりやすく解説される。（社会・新谷垣内）

◦行政法Ⅱ。現代行政にチクリと批判を加えながらの田村先生独特の解説は聞いていて面白い。（社会・三好）

◦国際開発論、現代国際経済論。新聞の世界経済の欄を読もうという気が起こってくる。（社会・矢田）

◦都市環境学又は土地利用論。社会科学を学ぶ上で、新しい視点を与えてくれる。理系オンチにもついていけるし、作業もあったりして楽しかった。（社会・原田）

◦戦争と平和に関する総合的考察。「ヒロシマ」で学生生活を過ごした者に、「ヒロシマ」に対する基本的認識を与えてくれるばかりか、現在の世界状況を「平和」という側面から見る、一視点を学ぶことができた。（情報・井手）

◦マイクロ・コンピューター。理系ならマイコンぐらいは使えるべきだと思う。（情報・榎本）

◦計算機基礎実験。計算機に関する基礎的な理論がよく理解できる。（情報・岡部）

◦倉石先生の環境生理学。興味本位だけでなく、内容があり学問的にも充実している実のある講義でした。（情報・柏木）

◦音楽。同じことを何度も聞かされる点にはいささか閉口しますが先生は現代日本に於ける音楽の状況を真に憂いている一人であり、その思いが私たちに直接伝わってくるような講義です。（環境・今泉）

◦集団力学。題目が物理学めいた心理学の講義ですが、要するに会社とかサークルのような集団内に於ける心理学を扱った内容であり、特にＰＭ理論などはサークル活動をしている人にとって参考になると思います。（環境・今泉）

◦砂防学。いわゆる地学的なイメージの講義ではなくて、ダムの設計、土石流の流れを物理的手法で解き明かす面白さ。（環境・藤）

◦生物物理。生命の神秘を物理的見地で講義すると共に、先生の理解しやすい説明。（環境・藤）

◦早いうちから他学部の授業を取ることは後の学生生活が豊かになりますよ。（社会・笠井）

編集部注。このアンケートには、なお種々の回答がありましたが、文意の判別に困難があるものは採録しませんでした。

卒　論　題　目　一　覧

Ⅰ　特別研究論文

コース	氏　名	論文題目名
地域	堀　博幸	朝鮮における部落祭の社会的機能
〃	田中　徹	毛沢東の教育思想 －初期における教育観の検討－
〃	加藤博子	カミュ研究
〃	加藤　洋	ベンヤミン論「遊民論へのアプローチ」
〃	上河内　宏	カルカッタに関する地域学的－考察
〃	黒木正信	「19世紀におけるイギリスのマレー半島進出」 ～マレー半島西岸諸国家干渉政策形成についての総合的考察～
〃	清水俊行	現代小説と共同体
〃	竹下弘行	アメリカ大統領の権限拡大 －戦争権限とベトナム戦争－
〃	中津幸久	姚雪垠「季自成」について －その歴史小説論と作中人物像を中心に－
〃	山崎訓嗣	ジャワにおける社会構造とエートスの関わり
〃	赤池清隆	英国精神の源流 －ジェントルマンシップの系譜－
〃	秋山敦子	少女マンガ論
〃	阿部　毅	筒井康隆研究
〃	新井正記	ＳＦ研究
〃	伊藤幸子	James Joyce の研究 Dubliners の "The Sisters"
〃	大西智之	現代中国語におけるいわゆる受事主語文について
〃	大村次郎	ヘーゲル研究 －その根本にあるもの－
〃	岡　浩美	国際石油資本の支配構造の変化と米国の対中東政策 －第一次石油危機時を中心として－
〃	岡田大介	国民国家に関する－考察 －インドネシアにおける国民形成の問題－
〃	木本　潤	ハーバート・リード研究 －危機の現代文明とその新生への願い－

コース	氏　名	論文題目名
地域	清野美穂	日本の風土と食文化
〃	児島健二	都市型工業の研究
〃	佐々木恵一	インドネシア・イスラム運動 －20世紀　改革派・保守派の分裂から接近までを中心にして－
〃	沢田伸子	中島敦論 －「山月記」を中心に－
〃	竹本郁夫	FROM ENCOMIENDA TO HACIENDA －several systems in Spanish America in the Colonial Period－ （エンコミエンダからアシエンダまで －スペイン領アメリカ植民地時代におけるいくつかの制度－）
〃	田中裕子	江戸時代の女性像
〃	田村あけみ	近松文学における遊女ことばの研究
〃	時本純子	夢の研究
〃	徳光　興	トーマス・マン作「ベニスの死」における－考察
〃	中川栄二	カチン社会の経済人類学的－考察
〃	中谷洋子	エルンスト・トラー研究
〃	西田美重子	ペルー・アンデスにおけるインディオーメスティソ関係
〃	浜崎恵子	広告1981
〃	肥後本芳男	アメリカ植民地独立の構想 －Samuel Adams の場合－
〃	宮田良二	イタリア・ルネサンス哲学研究
〃	持田智男	ニアス島（インドネシア）における宗教現象に関する－考察
〃	安居　宏	東インドにおける英蘭関係 －17世紀前半のイギリス東インド会社の活動を中心に－
〃	吉本和弘	イギリス・ノンセンス文学について －Nursery Rhyme を中心に－
〃	渡部　清	サリンジャー文学と禅

コース	氏名	論文題目名
地域	渡辺淑乃	chia「家」における女性の位置 －中国の女性に関する－試論－
社会	木村　昇	ルソー「社会契約論」について
〃	土井清之	製針業における時代と技術発達の特徴分析
〃	行友　悟	現代日本の住宅問題 －大都市圏の住宅対策への新視点－
〃	国本亮治	若者組について －その加入条件についての考察－
〃	田中伸武	現代「祭り」考 －ひろしまフラワーフェスティバルをめぐって－
〃	浜田敏彦	原子力発電と地域社会
〃	原田邦彦	トヨタ自動車工業と地域住民生活に関する－考察
〃	井上志保子	日本における平和教育運動の到達点と課題 －平和教育運動の歴史的考察と全国平和教育シンポジウムに関する考察をふまえて－
〃	今井　保	韓国の工業化における財閥の役割と課題
〃	大山義孝	訴えの利益 公害判例にみる訴えの利益
〃	掛波晃司	瀬戸内海環境保全法の検討
〃	笠井芳恵	戦後日本の移住問題
〃	金子江里子	行政的中枢管理機能の地方分散に関する－考察
〃	河野珠紀	「ネルー王朝」の軌跡 －ガーンディー時代を中心にして－
〃	児玉正芳	消費者問題と公正取引委員会
〃	新谷垣内　真琴	タイの経済発展と日系企業
〃	戸出浩昌	校内暴力についての－考察 －中学生における教師への暴力－
〃	中野靖睦	現代青少年の価値意識
〃	松本直子	サウジアラビアの経済開発と国内構造の変化
〃	松本博子	タイの農業発展に関する－考察
〃	水地昌子	タイの経済発展と輸出指向工業化政策
〃	三好修吾	「現代都市計画と住民」 ～広島市段原地区再開発問題をめぐって～
〃	村重理是	情報公開制度化をめぐる動きとその問題点

コース	氏名	論文題目名
社会	持留真児	公害の事後差止訴訟について
〃	森川憲太郎	市街地形成と土地区画整理
〃	矢田　肇	農産物流通における産直の意義再考
情報	田熊房子	青年期における自我同一性混乱に関する－研究
〃	糸井正一郎	餌種－補食種モデルの安定性に関する研究
〃	岩本　仁	Recognition of Natural Language Input （計算機による自然言語理解）
〃	黒田　実	判断の情報統合モデルに関する研究
〃	高橋誠志	x^2 分割の自動解析システムの研究
〃	古市昌一	DESIGN OF SELF-CHECKING COUNTERS WITH A PARITY BIT （自己検査可能なパリティビット付きカウンタの論理設計）
〃	吾郷真治	文脈自由言語の構文解析のアルゴリズムとその複雑さ
〃	安倍　博	デンショバトにおけるサーカディアンリズム －オペラントを用いて－
〃	幾島規理子	大腸菌ＳＳＢ蛋白質とfd DNA の相互作用
〃	井手安彦	社会不安に関する実証的研究
〃	岩永　誠	視覚的記憶表象の構造に関する研究 －心的回転のメカニズム－
〃	榎本秀治	記憶装置の組み込み検査に関する研究
〃	大西日出和	コンピューター・アニメーションの研究
〃	岡部恵二	ダイアグラム・テキストエディターの構成に関する研究
〃	岡安秀夫	ツメガエル培養肝細胞におけるヴィテロジェニン合成の一次および二次誘導について
〃	小野裕子	決定性言語。特にＬＲ（ｋ）について
〃	柏木俊之	視覚的形体の比較過程についての研究
〃	河島美保	ディジタル画像の連続再現に関する研究
〃	川村幸江	２次計画法による最適曲線の生成に関する研究
〃	酒井純子	行為の原因帰属と行為者に対する態度・行動の関係に関す

コース	氏　名	論文題目名
		る基礎的研究
情報	千石久美子	ストレス状況下におけるディフェンス・メカニズムに関する実証的研究
〃	田窪文明	不安と対処行動に関する実証的研究
〃	田村美江	社会不安の認知に関する研究 −EndlerのPerson Situation Interaction Modelの検討−
〃	寺本和彦	CAD(計算機援用)による最適制御システムに関する研究
〃	土井正樹	プログラミング言語の変換に関する研究
〃	栂　好美	ティーチングマシンに関する研究
〃	鞆　仁美	パーソナルコンピューターの計算機端末への応用
〃	中島宏和	論理回路の診断アルゴリズムに関する研究
〃	林　直史	対リーダー満足感に及ぼす成員の認知特性の影響の吟味
〃	百武弘登	コックス回帰モデル(Cox Regression Model)の研究
〃	深瀬温子	デンショバトにおける時間弁別行動
〃	前田香織	逆アセンブラの研究
〃	増成彰治	人の成長の数学的特徴づけ
〃	松浦正明	リッジ回帰(Ridge regression)の研究
〃	見浦淑子	パーソナルコンピューターによるコンピュータ・アニメーションに関する研究
〃	水本千秋	条件性情動行動における脳誘発電位
〃	森久聡子	LOCAL NETWORK を用いた分散処理の研究
〃	米田伊公子	言語及び非言語での態度伝達における手がかりの優位性に関する実験的研究
環境	三角政義	亜鉛ポルフィリンの光電気的性質
〃	鎌田　靖	山火後の水収支及び系内水循環の変化
〃	中川勝範	山火によって枯死したアカマツ根の腐植化速度
〃	秋山雅也	植物体内におけるサイトカイニンの動態
〃	伊藤康生	牛肝ミクロソームのNADPH:チトクロームP−450還元酵素の精製と性質
環境	井上　理	岡山県後月郡芳井町北西部の地質と地下資源ならびに自然災害について
〃	今泉　治	公園緑地の微気候における熱収支論的考察
〃	梅村幸平	活性汚泥による汚水処理過程での微生物の生態
〃	児島清秀	マングローブの生理
〃	斉藤保彦	自動車排気熱の小気候に及ぼす影響について
〃	坂本善一	山火後の塩類収支および系内塩類循環の変化
〃	菅岡茂実	シイタケの人工栽培(産業廃棄物の有効利用)
〃	竹内吉和	リー群とリー環の構造
〃	中上京治	重水素原子核の四重極モーメントについて
〃	藤　寛	伝導機構研究のための伝導ゆらぎ相関法の開発
〃	藤田智之	ニガキPicrasma ailanthoides(キガキ科)の生体成分の分析
〃	増山和弘	黒瀬川流域の混住社会化と水環境
〃	森本日佐人	地すべり・山崩れの地下探査に関する研究
〃	山内　聡	チャバネゴキブリの増殖に及ぼす年令組成の影響

Ⅱ 修士論文

研究科	氏名	論文題目名
地域	垣田久美	許伝 ドリュ・ラ・ロシェル－両大戦間の世界と新たな世紀病－
〃	今野信哉	電力技術体系の形成過程に関する技術論的考察
〃	赤松立太	構造と愛情：農部スペインにおける青年組織論
〃	石川榮治	中央アンデスの家と親族についての試論
〃	小松出	「中国における農業協同化の諸問題 －1950年代中国『農村革命』の展開過程について－」
〃	小林繁実	日本古代における星辰観
〃	柴田和子	「近代化学成立過程における気体化学研究の意義と役割」
〃	六郷寛	近世安芸地方における「講中」の研究
環境	会沢邦夫	Generative Power of Two-Dimensional Developmental Systems. 2次元生長システムの生成能力
〃	明本光生	Study of Dinucleon Resonances 二核子共鳴の研究
〃	浦崎正美	マングローブ植物メヒルギの生活戦略――散布・定着の機構――
〃	大久保卓也	水銀の地球化学的循環
〃	岡馬裕人	松枯れの 実態と原因に関する疫学的考察
〃	香川憲夫	シトクロームP－450 c-21とステロイド基質の相互作用の解析
〃	梶山博司	液体金属表面の理論
〃	上河内孝行	大腸菌RNA合成酵素の活性発現機構の動的研究
〃	木原伸雄	金属ポルフィリンの光電気化学的特性
〃	河野智晴	非マルコフ的ブラウン運動の光子相関法による研究
〃	坂田省吾	ラットの時間知覚における行動分析
〃	坂根嘉典	漢字の階層性による手書き漢字認識システム
環境	武田周三	RM_2 金属間化合物及びその水素化物の磁気的性質
〃	武市伸幸	年輪気候学における資料の解析方法について
〃	田中淳介	筋小胞体におけるカルシウム輸送機構の研究
〃	知念民雄	山火事跡地の斜面における侵食過程－広島県江田島の例－
〃	中井達郎	与論島における現成サンゴ礁の地形変化とその構成
〃	西明彦	日本および台湾産マダラチョウ雄のヘアペンシルおよび性斑に含まれる性フェロモンの化学的研究
〃	西澤誠二	希土類磁性半導体EuSeの磁気的性質
〃	野田泉	低酸素環境下のラットの行動と順化
〃	野村和芳	岡山県川上町付近の地質－特に高山石灰岩と層序と資源に関して－
〃	南風原朝彦	アカマツ林の土壌と植物におけるリンの分布に関する研究
〃	橋本淑子	リン施肥による土壌と植物体中のリンの動態－特に広島県緑化センターの土壌－
〃	福島信夫	カブトエビの個体群生態学的研究－アメリカカブトエビを中心に－
〃	藤原真理子	Studies on regulatory mechanisms of neuromusclar transmission in the molluscan radular muscles. 軟体動物歯舌筋における興奮伝達制御機構に関する研究
〃	前島和幸	コクゾウの産卵選好に関与する植物成分の化学および生態学的研究
〃	森山雅敏	モデルポテンシャル法による金属結晶構造の理論的研究
〃	矢野和秀	太陽虫の軸足の収縮性
〃	横山博司	不安に関する実験的研究－刺激事態の不確実性が状態不安に及ぼす影響について－
〃	渡辺昭	微生物による汚水の浄化

特集

よ　う　こ　そ　57　生
―期待していますフレッシュマン―

編　集　部

＝ユニークな総科＝

総合科学部は、広島大学の中でも、なかなかユニークな学部であります。学問的にユニークというだけでなく、学生のまさに"ひょうきん族"化という意味でもユニークなのです。総合科学部と言えば、何故か、他学部の学生は、ある一様なイメージを持っているみたいで、これまで耳にしただけでも"変人集団"だとか"お祭り人間総科生"だとか、"総科生には恐いものはないのか"とか――etc　まあ、かなり型破りな集団と理解されています。しかも、困ったことに総科生はそれを楽しんでいるところがあり、1年から4年まで学部をあげてバカをやってしまうのです。だから、入学当初、学部を尋ねられて「総科!!」と元気よく答えた時、あざけりとも同情ともつかない反応を返されても気にしないのが一番!!除々に、その理由を身をもって体験できますから…物事に動じない強さが総科生には必要なのであります。

＝総科、その原動力（研究室）＝

薄暗い半地下にあって、いつ行っても汚く、空気がズーンとしていて、おまけに窓には鉄格子がはめてあります。梅雨の時期には、じめじめとして不健康きわまりなく、スチームの入らない冬の日は底冷えする部屋、それが"研究室"です。研究室といってもアカデミックな雰囲気はかけらもなく、一言で言えば『ダベリング・ルーム』。しかし、この研究室は、行けば行く程その魅力にとりつかれてしまう不思議な所なのであります。この研究室が無性に居心地良く、モグラのように一歩外へ出れば、まぶしい!!と感じる程になりましたら、もう研究室の常連、お得意さん!!　いずれはどっぷり首まで入りびたるようになります。そして、そのような常連が、あちらにもこちらにも…　やがては、グループが出来、それぞれの話題でペチャラクチャラ。研究室でしゃべっていると、1～2時間はあっという間に過ぎてゆきます。

その上この研究室から、様々な行事参加が行なわれます。6月祭、大学祭、市中パレード等の参加や1年生だけのコンパ（試験突入コンパ、打上げコンパ…etc）の開催などです。この行事企画のキバツさが、他学部生に「総科はようやるー」と言われる所以なのであります。

このような研究室を持てる総科生、みすみす利用しないてはありません、どんどん研究室に入っていって、そこで顔を合わせた人と友だちになりましょう。研究室にやってくる人皆が、総科の原動力と言えるのであります。

＝総科主催行事＝

総科には、総科生のための様々な行事もあります。ソフトボール大会、西条研修、新歓コンパ…etc こういう行事には、積極的に参加したほうがいいでしょう。縦横両方に人間関係が広がり、特に、西条研修では教授とも"お友だち"になれます。

せっかくざっくばらんな人間関係を持てる総科に入ってきたのですから、機会あるごとに積極的に参加して、交際範囲を広げるのも、よろしいのではないでしょうか。

早くも私が一人の受験生だった時から一年が過ぎようとしています。忙しいのやら暇なのやらわからない、私にとって一等不思議な年でした。ここで、今、思うことなぞ少しつづってみましょう。

<その1>食い物の恨みは怖ろしい…

忘れもしない、あれは後期の聴講手続の日だった…私は午後の席を確保するため、机にお弁当の包みとファイルを置き、午前の講義に出た。それから約3時間後、腹をすかせて私は例の教室へ急いだ。だが、何ということだろう！私の愛するお弁当は、入れてあった小さな袋をあとに残し、何者かに連れ去られていたのだ！うう、「食べたらお弁当箱くらい返せ～」という叫びも空しく、今に至るまでトムソーヤの箸ごとそれは行方不明である。友人達に慰められながら食べたその日の天ぷら中華は、たいそう複雑な味がした。以後私は一度もお弁当をつくったこと

がない。

しかし、お弁当くらいならまだ愛敬があるが、自転車や財布となると、気の毒としか言いようがない。因みに、自転車を盗まれて『もうすぐ広島を離れるのだから…』と考えた末、広島駅に永らく放置されていたのを一台失敬した人もいるとか。こうなると社会的責任や倫理の問題にも。

<その2>ロシア語のすすめ

時勢のせいか、この時間はとても教室が広く感じられる。冬は寒い。知人の言葉を借りると、①科学分野ではソ連は一大先進国であろうこと、②今こそソ連という国の人々、文化を深く理解しなければならぬ時なのに－これを言うと朝鮮語も頭を出してくるなぁ－ロシア語が極端に不人気なこと、主にこの2点から、ロシア語をお薦めする。

とか何とか大きなことを掲げたが、私の場合、人数が少ないと聞いて好奇心半分、勘の悪い私もとり残されないだろうという気持ち半分で採った。音は日本語に近いし、一語一音がかなり徹底しているしで（淵上先生のご指名の瞬間以外は）私にとって好きな講義の一つだ。（その割には…）何と言っても人数が少ないので面倒見がよい。M氏曰く、『楽勝コースと聞いた』さぁ皆さん、ロシア語においでませ！

<その3>一般科学実験のおすすめ

一般科学実験EとFは環境科学コースだけ必修となっているが、時間が許せば地域や社会に進む方もやってみては。〔講義というより楽しく遊んでいる（先生ごめんなさい！）よう。〕また、他学部に、割り込んでみると学部のカラーの違いに驚いたり、新しい友達ができたりして、これまたおもしろい。

<おしまいに>友だち

人って、口には出さないけれど、いろいろな事を考えています。自分のこと、世界のこと、そして誰かのこと。例えば、自分は今、広島にいる、何をしているんだろう、しようとしているんだろう、しなければならないのだろう…時には超・マジな話もしてみるのもいいものです。私は『そんな話ができる友達がいる』と言えます。これは大そう幸せなことなのでしょう。この幸せが私たちみんなに永くありますように…そんなことなぞ思い思いして雑文をくくります。

クラブのすすめ

大学に入って、しばらくして、ちょっととまどう時期があるかもしれません。昼食を食べ終わって、次の授業まで間がある時、思いがけず授業が休講になった時。まだ入学して間もないので一緒に暇をつぶしてくれる親しい友人もそんなにいない。総科は一年生だけの研究室があるなど、わりと学科内の交流がさかんな方ですが、一度入りそこなってしまうと研究室というものは入りにくい場所で、入りそびれてしまった人は一人でこんな時間をもてあましてしまうこともあるかもしれません。そんな時、"人生とは、孤独とは…"などと文学書を片手に考えこむ人も、たわいもないヒマつぶしをしながら気を紛らす人もいるでしょう。どっちにしろあまり健康的でも建設的でもありません。確かに悩むことは良いことですが大人物ならともかく、あまり頭のよくない普通の人は、何もしないで悩んでばかりいても生産的な考えがうかんでくることはないでしょう。我々は若いので、今はひたすら吸収する時期だと思います。大学に入ると高校の時よりずっと時間的に自由。親元から離れた人は、親の監視からも自由。自分の好きなことをしたり学んだりするのに、一生にこれ程都合のよい時はありません。ただ悩んだり、ヒマつぶしをする時間があるなら、大いに自分の好きなことをおやんなさい、人は惹かれるものを追い求めていく時、一番多くのものを得られると思うのです。他人からつまらないと思われることでも一生懸命とり組んでいれば、何か必ず得られるはずです。少なくとも何もしないでそれを見て笑っている人間よりはずっと立派です。好きなことをするというのでは、クラブに入るというのも一つの方法です。幸い各クラブ共新入生の勧誘は盛んで、入学式から一週間、森戸道路には、各クラブの勧誘の為の店出しが並びます。いろいろしつこく声がかかるでしょうが、どれを選ぶかはあなたの自由。ただここで注意してもらいたいのは、クラブの中には、その性質上、とても多くの時間を拘束されてしまうクラブも多いのです。特にスポーツ系、音楽系など、ほとんど毎日練習、長期休暇には、一週間以上の合宿なんていうところもざらです。そういうクラブの場合ただひきずられてなんとなくでは続きませんから、しっかり覚悟を決めて入った方がよいでしょう。スポーツ系は試合前は地獄です。一見優雅そうな音楽系サークルも定演（定期演奏会）前は修羅場です。他の文化系サークルも発表前はそんなもんです。で

もそういうクラブは辛いだけに充実感も大きいでしょう。あまり自分の時間を縛られたくない人の為には、比較的クラブより楽な同好会もたくさんあります。特に総科は総科の行事が多いので、それにうちこみたい、バイトをしたい、でももう一つ何かしてみたい人。またこれだけ人の多い大学にいるのだから、もっといろんな人と知り会いたい、という人に良いでしょう。

何を選ぶか何をするか、あなたの自由です。ただ4年間、悔いの残らない過ごし方をしてほしいと思います。

自由投稿「ハイキングはいかが」
ー宮島・弥山の巻ー

55生　雲井　司

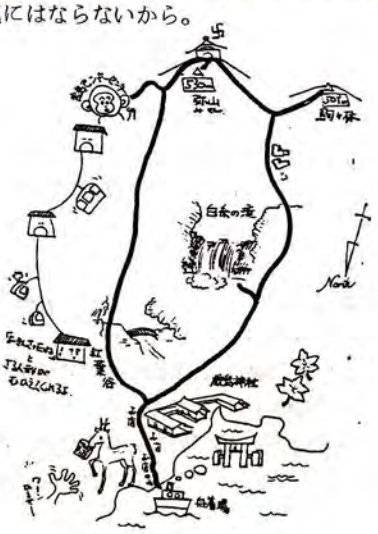
57年度生の皆さん、御入学おめでとうございます。下宿の中の整理やら、クラブの勧誘攻めやら、聴講の席取りやらで忙しいことと思います。そんな四月五月の日曜日、せわしい市街を離れて郊外へ出かけてはどうでしょう。植物公園、安佐動物園もいいですが、ちょっとなまってきた体を、しっかりさせるためにもハイキングはいかが？比治山や元宇品では芸がない。千円札一枚と弁当持ってまず宮島へ出かけよう。

広電のピンクの連結車両宮島行きに乗る。終点まで乗って今度は渡し舟で宮島へ。渡し舟とはいっても、かなり大きな舟だから御心配なく。まちがっても沈みません。右手に大鳥居を見ながら船は厳島の舟着場へ。出札を出たら右手へ歩こう。商店街らしき通りには、B＆Bで有名な「もみじまんじゅう」やら「しゃもじ」やらのお土産物屋さんが立ち並ぶ。土産を買おうと思うなら、少しお金を余分に持って行こう。商店街を抜けて、しばらくゆくと、厳島神社が見える。神社でハイキングの安全を御願いしてゆくのもいいだろう。弥山に登るにはいくつかコースがあるが、今日は紅葉谷を登ってみよう。厳島神社の左手を紅葉谷のほうへはいる。宮島ロープウェイもあるが、頑張っていい汗流そう。ロープウェイ乗場のところからは今までと、うってかわった静けさだ。新緑が美しい。開発されてしまっていると思っていた宮島にも、まだ弥山原始林と呼ばれるほど自然が残っているところもある。谷に沿って50分ほど登ると、弥山とロープウェイ終点の分岐に出る。左へゆるい坂を登ってゆくとロープウェイの終点。ここには宮島モンキーセンターがある。中を見学してみるといい。モンキーセンターの上の展望台からは、広島市街が一望できる。ここには倍率の高い双眼鏡があるから、運がいいと自分の下宿の屋根がみつかるかもしれない。そうそう、このあたりは猿が多いけれど、くれぐれも、いたずらはしないように。私の友人はもう少しで、ひっかかれるところであった。

さあ、いよいよ弥山へ！今来た道を分岐まで引き帰して、さらにまっすぐゆく。ちょっときつい坂と石段を登ると、弘法大師ゆかりのお寺に出る。ここでは、千年来消えたことがないといわれる火が燃えている。立て札に従ってもう少し登ると弥山山頂。りっぱな休憩所がある。でも回りの巨石に座って、美しい多島海を見ながらお弁当を開こう。雄大で、しかも優雅な気分で食事ができる。天気が良ければ何時間でも海をながめていたくなるだろう。

登って来た道をお寺まで下る。そこから今度は右へ下る。駒ケ林というピークへ行くのもいいだろう。原始林（とは言ってもきちんとした道がついている。）の中を下る。対岸の廿日市町が見える。途中に、白糸の滝という小さな滝がある。たいした滝ではないけれど、まずは話の種に。お寺から30分もすると、もう厳島神社の裏手に出る。神さまに手を合わせたら、再び渡し舟に乗って帰ろう。

最低千円で一日遊んで汗を流せる。山頂での壮快さは登ってみなけりゃわからない。さあ、友人関係を深める為にも、友達と一緒に弥山へ登ってごらん。損をした気にはならないから。



「移　転」を　考　え　る

工学部の移転が始まり、統合移転もいよいよ本格的になってきました。

今後『飛翔』でも移転について考えていきたいと思います。

大学・学部からの正式な情報は、『**学内通信**』、『**メタセコイア**』に掲載されますので、そちらに目を通していただくことにして『飛翔』では、それらの情報をもとにした、学生の立場での自由な意見を載せることにしたいとおもいます。

巻頭の『飛翔』紹介でも述べた様に、今言いたいこと、言わなければならないことを学生編集委員まで、どしどし投稿して下さるようお願いします。特に新入生の方々の卒直な意見を期待しています。

就職委員会だより

就職委員会委員長　**三　寺　光　雄**（環境科学コース）

大学卒業予定者にとって、気がかりなことは就職問題であろう。今年度の就職戦線もいろいろな爪跡を残してようやく終った。56年度の就職問題の世話をしてきたものの１人として、きづいた幾つか点について述べたい。

第１の問題点は、就職に対する自覚が薄いことである。就職は学生自身の問題である。就職委員は学生の相談役として機能することはできても、身代りとなることはできない。きわめて当然なことであるが、多くの学生に接してみて気になることの１つであった。このことは結局、就職に対する自覚の薄さにつながっているのであろう。

第２の問題点は、意志決定があいまいなこと、企業、職種の選択ができない学生が多いことである。このことについては、ある意味でやむをえないことであるとも思うが、自分から進んで、就職のための企業研究を行うという姿勢がほしい、積極的に企業研究をしようとする学生にとって就職委員会は十分に役立つはずである。

第３の問題点は、常識を行動で示すことのできない学生が多いことである。第１次の入社試験に合格していながら、面接時に面接の態度、質問に対する答え方などに不十分な点がめだった。あとできいた話だが"常識ある専門家"そうした観点からの面接であったという。企業が１人の人間を採用すると約４億円の投資が必要という自覚がある。企業が人を選択する目はきびしい。就職戦線では、相手が許してくれるだろうと期待する態度は禁物である。

自分の顔は紹介状であり、心が信頼である顔と心が一体でなければ採用されることはおぼつかない。

昭和56年度の求人関係の特徴は、コンピューター関係の求人が多かったことである。一般的には、技術専門職（工場エンジニア、開発エンジニア）セールスエンジニアなどに企業の関心は高かったように思われた。昭和56年度の本学部における就職状況を表に示したので参考にしてほしい。

57.3

卒業予定者進路内訳

（57.3.16現在）

区分＼コース	地域文化	社会文化	情報行動	環境科学	計
卒業予定者数	38	26	39	19	122
進学	9	0	7	10	26
公務員	2	7	3	2	14
教員	5	4	5	2	16
企業	18	12	21	5	56
自営	0	1	1	0	2
無職	4	2	2	0	8

（無職には研究生、聴講生を含む）

就職内定企業名（民間）

地域文化	社会文化	情報行動科学	環境科学
日本測器	内山工業	三菱コンピュータ	大和ハウス販売
ぎょうせい	協栄生命	三菱電気	計測科学研究所
山九運輸	中国新聞社	日本電気	環境アセスメントセンター
産経新聞社	日本データーゼネラル	静岡県民テレビ	中外製薬
日本楽器	富山第一ホテル	中国電力	三信工業
早川書房	ノエビア化粧品	ヤマハ発動機	
松下電器	タカキベーカリー	菱船エンジニアリング	
東洋工業	山口放送	玉屋デパート	
EST教育システム	シャープ	大阪公文数学研究会	
アシックス	中国電力	広島銀行	
近畿日本ツーリスト	日立クレジット	石田データーサービス	
熊平製作所	三菱重工プラント建設	ブラザー工業	
メガネの田中		西武観光	
ニチイ		中国新聞社	
スワニー		日本電気ソフトウエア	
伊藤忠データーシステム		フジ	
鐘淵化学		沖電気	
		広島ホームテレビ	
		広陽日産	

（順不同）

編　集　後　記

◦新入生の皆さん、ご入学おめでとう。せっかく総科に入られたならついでに『飛翔』にも入りませんか？ただし酒をこよなく愛する人がいいなあ。酒で世界一周できる人を望みます。　（井上亮一）

◦21号にしてはじめて記事も書きました。アンケート整理もやりました。次回22号では『飛翔』海外特派員くらいに任命してアメリカ取材旅行に行かせてくれないかなあ。ねえ！総集長？　（隠岐幸代）

◦えらいこっちゃ、えらいこっちゃ、えらいこっちゃ……好きですこの言葉。　（桐木淳二）

◦アレヨ、アレヨの１年間。もうすぐ可愛い後輩も入ってくるし、今年もガンバルゾ！　（高上佳子）

◦アッというまの１年間！今年は新たな飛翔を！
（竹下　斉）

◦あ～　できたっ。　（戸田友子）

◦あしずりみさきで、たんぽぽにみまもられながらしにたいな。　（橋本記一）

◦お手伝いできなくてスミマセン。　（山田順二）

◦今回は『飛翔』の中のおじゃま虫になってしまった。何とものそーっとしたのは私のキャラクターであろうか。　（大原高志）

◦21号がでました。昨年は以前にもあった企画ばかりでしたが、今年からはもっとクリエィティブな企画を考えてゆきたいと思います。でも、くたびれる。
（雲井　司）

◦年が明けて恒例の後期テストも無事終了し、ほっとしているとすぐ春の号の〆切り日が近づいてきます。また４月には57年度生が入学してきて、またまた次の号に向かって大忙がしになる……はずですよネ。編集長さん!?　（廣谷義明）

◦恒例となりました、卒業生アンケートいかがでしたか。卒業生の方々には大学生活の思い出として、在学生の方々には今後の研究の手がかりとして、新入生の方々にはとらえ難い『総科』像の解明に、少しでもお役にたてるのではないか、と自負しています。今年も『飛翔』をよろしくお願いします。
（松浦　豊）

◦今日、ドイツについての真実の映画は何とすばらしい芸術作品となるだろう！しかし、真実とナチズムとは相容れることはできない。
真実を求める人はナチズムの列に加わることはできない。真実を求める人はあなたに反対する！
－1934年、ゲッベルス宣伝相への公開状－「エイゼンシュティン語録」より引用　（内田精二）

◦編集委員としてこの一年間編集会議に参加した。企画に対していくつかの苦言を呈したが、特に強調したいことは、昨年あるいはそれ以前の踏襲した記事が多いように見受けられることである。本学部の新鮮さを保つためにも、新しい型の記事が来年度以降にあふれることを期待したい。
（広報委員　櫃田倍之）

◦卒業生アンケートの「薦めたい授業」について。これは回答者の学生生活の体験を通じての個人的な「お薦め」であって、総合科学部全カリキュラムを体系的に考慮して学部が「お薦め」したという意味ではない。大学の授業を教授学の観点から研究することは相対的に遅れていることもあり、また大学の授業はそもそもそういうものであるのかも知れないが、授業形態は変化に富んでいる。そこで、お薦めする理由も様々な角度から起りうる。それはそれで貴重な呈言である。が、それとは別に学部・コースのカリキュラムを体系的に考慮する必要もあるのではなかろうか。それは「総合科学」の概念の検討にもつながるし、学生の勉学の指針にもなろう。この記事に関しては、例年種々の反応があり、取扱いは容易でない。
読者諸氏の御提言をいただき、編集委員会で、今後とも検討していくことが必要に思われる。
（広報委員　木本忠昭）